



アフリカ中心性

モレフィイ・ケテ・アサンテ

テンプル大学アフリカン・アメリカン研究学科教授・学科長（アメリカ合衆国）

アフリカ中心性とは？

アフリカ中心性 (Afrocentricity) とは、アフリカ人自身の歴史的経験のコンテキストにおいて、アフリカ人を中心位置づけることを優先する知的パラダイムである。鍵概念としては、「主体性」、「立場」、「場所」、「中心的位置づけ」そして「主体」などがある。アフリカ中心性論者は、アフリカの人々に関する現象についての言説をヨーロッパ中心の考え方や概念的枠組みから離れ方向転換することを目的とし、アフリカの人々に対する全ての検証、批評、分析において、主体性を推進させようと試みる。

誰がこの概念を使用するのか？

アフリカ中心性は、コミュニケーション、歴史、社会学、社会福祉、心理学そして教育などの研究者によって広く用いられてきた。言語発達、経済、異文化コミュニケーションを学ぶ人達はしばしばアフリカ中心性の概念を用いている。それらの研究は、「意識」、「主体性」、「アイデンティティー」、「人種」、「修辞」、「隠喩」、「美学」そして「倫理」を関心のある根本的なテーマとして扱ってきた。「アフリカ中心主義」 (Afrocentrism) という用語が時折アフリカ中心性を批評しようとする者によって用いられているが、アフリカ中心性は何かが主体性、中心的位置づけ、あるいは主体的立場なのかについて議論ができ相違の余地のある開かれたシステムである。宗教でもなければ信条の体系そのものでもない。アフリカ中心性は、データの見方であり、情報の作り方である。従って、データへの志向

性として、不变の概念的構造ではなくそれ以上のものである。

異文化ダイアログとの関連性？

アフリカ中心性は、アフリカの物質的利点を押し付けたり推進することなく、他の文化との成熟した関係を目指す。アフリカの人々は、自分たちの文化を中心に位置づけ、人間性のかけがえのない一部として主張することで、自分自身のコンテキストにおいて主体性を持ち又は担い、多文化言説において一緒に構築するという正当なパートナーとしての役割を果たす。そういう考えは、物質至上主義、霸権主義、支配より基本的に人間的である。

今後の課題

アフリカ中心性は、世代と大陸を超えて、アフリカの人々に関するあらゆる言説をヨーロッパ中心の犠牲者化及び客体化の低地から引き上げよう試みる。アフリカ人は、ブラジル、コロンビア、ペルー、エクアドル、ウルグアイ、メキシコ、カナダ、フランス、英国、カリブ諸島、その他の国や地域の文化、アイデンティティー、そして言語と様々な方法で対峙してきた。それを研究することは、異文化コミュニケーションの理解を大いに向上させることになるであろう。



参考文献

- Asante, M. K. (2014). Afrocentricity: Toward a new understanding of African thought in the world. In M. K. Asante, Y. Miike, & J. Yin (Eds.), *The global intercultural communication reader* (2nd ed., pp. 101-110). New York, NY: Routledge.
- Mazama, A. (Ed.). (2003). *The Afrocentric paradigm*. Trenton, NJ: Africa World Press.

翻訳者：三池賢孝（ハワイ大学ヒロ校）